

ネット依存対策探る

神奈川・横須賀市

党県団 治療研究機関で意見交換



ネット依存症について樋口院長(左端)と意見を交わす党神奈川県議団

「は昨年7月、「ネット依存治療研究部門」を設け、ネット依存外来による診療を開始。患者の多くが中・高校生など未成年者で、ネットを通して多数が同時に遊べるオンラインゲーム依存が全体の7割を占めるとい

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)は1日、神奈川県横須賀市にある国立病院機構「久里浜医療センター」を訪れ、インターネット依存症の実態と治療の現状について関係者と意見を交わした。

オンラインゲームや動画サイト、ブログなどネットを使い過ぎることによって日常生活や社会

生活に支障を来すネット依存症。同センターが2008年に行った実態調査によれば、20歳以上でネット依存が疑われる人は全国で271万人に上ると推計。未成年者は、これをさらに上回る可能性が大きいとされている。

同センターの樋口進院長は「まずは実態を明確に把握することが重要」とした上で、「ネット依存を予防するために必要な教育や取り組みを幼いころから行っていくべきだ」と強調した。

党県議団では今後、

保護者への意識啓発など効果的な対策を検討し、政策提言していく方針だ。